

道 徳 科 の 評 価

- ◆子供の学習状況を踏まえ、成長の様子などに係る顕著な事項を文章で記述する。
- ◆子供の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

■教師に求められる態度

- ①子供はよりよく生きようとする力をもっているという信念をもつ。
- ②心から成長を信じ願う姿勢をもつ。
- ③子供の人格を尊重し、惜しめない愛情をふりそそぐ。
- ④教師も人間としての未熟さを自覚し、子供とともによりよく生きようとする。

■評価の原則

- ◆道徳性は評価しないこと
- ①数値でなく記述式の評価
- ②相対評価ではなく個人内評価
- ③他者と優劣を比較しない評価
- ④内容項目ごとではなく大きくくきなまとまりの評価

■道徳科における主な評価の方法

授業観察

学習状況のありのままの姿を客観的に把握し、記録する。

観点：発言 挙手 教師への視線 友達への視線 傾き

チェックリストを用意し授業中または授業後に心に残る子供について記録する。

パフォーマンス

役割演技などの場面で子供が発言した内容を記録する。役割演技の後に行われる話合いでの発言の内容を記録する。

ポートフォリオ

ワークシート、感想、手紙など子供が書いた成果物を保存し、子供の思考の変化や心の成長を見取る。その内容を個人ごとに記録する。

自己評価

子供自らが振り返り、道徳的価値の理解の深まり、考え方の変化、友達からの学び、学習態度、教材への感想などについて思いを発表したり記述したりした内容を記録する。

- ・一単位時間での自己評価
- ・数回の授業を経ての自己評価
- ・成果物を通した自己評価

相互評価

子供がワークシートや感想に書いたものを互いに見せ合い、友達がコメントやメッセージとして書いたものを記録する。

アンケート

授業終了の際に、学習態度面での項目を提示し、子供が記号などで回答したものを記録する。

- ・自分の意見をしっかり言えたか。
- ・友達の意見をしっかり聞けたか。
- ・授業中真剣に考えたか。
- ・授業は楽しかったか。
- ・よく発言したか。

評価のための授業ではない。道徳科の特質を踏まえた授業を行ってこそ適切な評価ができる。